

A high-angle, front-facing view of a bright red sports car, possibly a Lotus Evija, set against a black background. The car's headlights are illuminated, and the interior seats are visible through the windshield, both labeled 'RECARO'. The text 'GREEN LORD MOTORS' is overlaid in large white letters across the center of the car's hood.

GREEN LORD MOTORS

Presentation

Astounding pleasure for all

About GLM



About GLM

Green Lord Motors History

京大ベンチャーとして設立

2006年 : 京都電気自動車プロジェクト発足(京大VBL内)

2010年4月: 京都電気自動車プロジェクトの流れを受け
グリーンロードモーターズ(株)設立 (京大ベンチャーズ)



電動アシスト人力車を開発



竹籠EV「Bangoo」開発

Kyoto-car Project



<http://www.kyoto-car.jp/index.html>
<http://www.vbl.kyoto-u.ac.jp/Projects/Kyoto-Car/>



京大が生んだSports Car「tommykaira」継承

tommykaira **トミカイラ**

トミカイラ プロジェクト 雑誌 朝日新聞 朝日新聞 朝日新聞

トミカイラ EV

motoring

The Lotus eater

FERRARI RIVAL IS REVEALED

電気自動車で復刻

京大のベンチャ
ー「グリーンロード
モーターズ」が、京
大VBL発足の10
周年を記念して、京
大の先輩が作った
「トミカイラEV」を
復刻した。シャシー
やボディ、駆動系を
立て替えて、最新の

人気スポーツカー
として、復活を遂げる
。5000台以内の生産
を計画する。トミカ
イラEVは、1984年
にトヨタから発売さ
れた。トミカイラは
90年代後半に販売
された。トミカイラ
の復刻をめぐって、
京大発VBLが開発

トミカイラEVの復
刻をめぐって、京大
発VBLが開発

【日本経済新聞 2010.12.3 朝刊】

環境都市「京都」でEV量産開発スタート

2010年12月: 京都府京都電気自動車開発WGを設立(主幹車) 商品共同開発開始

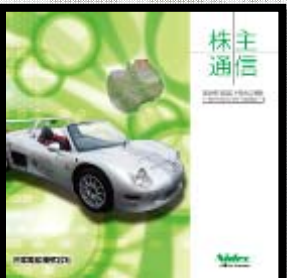


京都発 EV発車

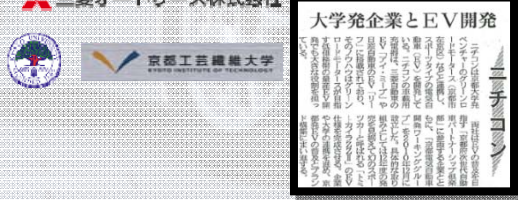
低価格帯の
開発目指す

電気自動車(EV)の普及を目的に京都市内のEV開発ベンチャーなど13社が11日、京都府が設立した府民時代自動車パートナーシップ(府民部)内に「京都電気自動車開発ワーキンググループ」を立ち上げた。京都に蓄積された技術を使い、将来は京都発の低価格帯のEV開発を目指す。

京大、オムロン…13社参画



※日本電産 株主通信



大学発企業とEV開発

ニチコン

NEXT STEP

【京都新聞 2010.12.12 朝刊】

※ニチコン共同開発記事

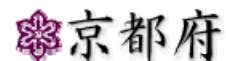


経済産業省
Project NEXT FLAGSHIPS2011
「電子・エネルギー技術産業分野有望企業」認定



京都大学
VBL若手研究助成(京都大学VBL)

京都府
「京都電気自動車開発ワーキンググループ」幹事



京都府
元気印中小企業認定制度 認定

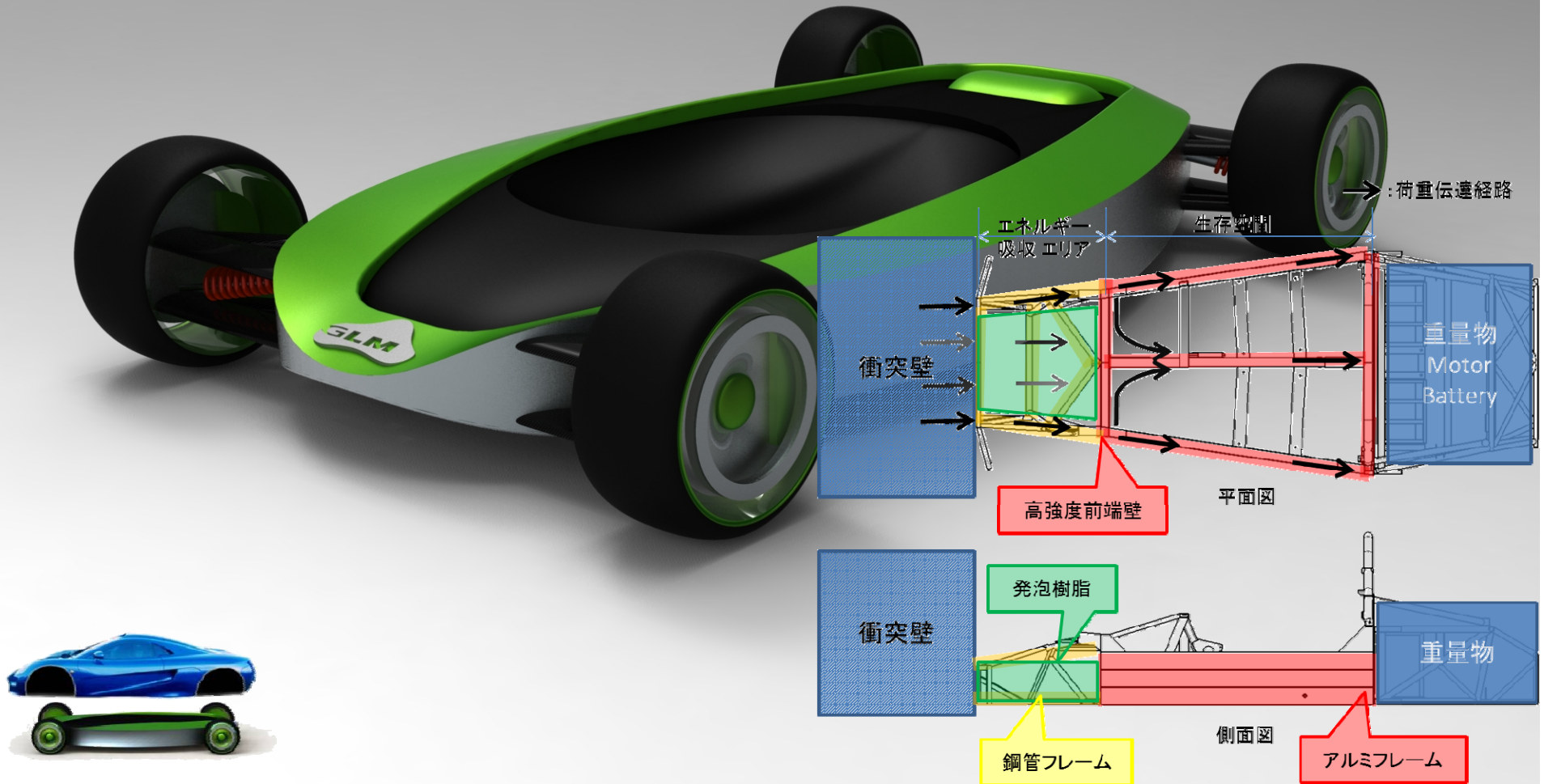


(財)関西文化学術研究都市推進機構
「けいはんな地域グリーンイノベーション発展対策支援事業
(環境・エネルギー産業成長発展支援事業)」アドバイザー



第12回キャンパスベンチャーグランプリ
日刊工業新聞社賞受賞

2012年9月 車体特許 正式取得



京都産スポーツEV



小阪金属工業(株)
GLM(株)舞鶴事業所
舞鶴市



フレーム製造・組立
FRP製作

GLM(株)
左京区/京都大学
企画・設計・販売



(株)KED
亀岡市

アライメント調整
アフターサービス



メイサン
京都市左京区

マスターモデル製作



GLM(株)宇治工場
宇治市

R&Dセンター



共同開発: ニチコン・日本電産・GSユアサ



2013. 春 1日250万人が乗降する
「大阪駅」直結 KMOでのショールーム開設



ナレッジ キャピタル

KNOWLEDGE CAPITAL

2013年春誕生。

グランフロント大阪の中核施設「ナレッジキャピタル」。世界をおもしろくする「知」の大空間が、2013年春、大阪「うめきた」に誕生します。

「ナレッジキャピタル」は、ビジネスパーソン、研究者、クリエイターや学生、さらには子どもから大人まで幅広い生活者が参加して、未来を共創する複合施設。それぞれが持ち寄る「感性」と「技術」を融合させ、「新しい価値」を生み出します。

ナレッジキャピタルのコンセプトについてはこちら

日経ビジネス 「日本を救う次世代ベンチャー100」に選出



75 EVスポーツカーを製造
・グリーンロードモーターズ
(東京都、2010年)

創設した京都のメーカーが製造していた国産スポーツカー「トミーカイラZZ」は電気自動車として復活。来年から販売する。京都大学発ベンチャー

京大発ベンチャー、グリーンロードモーターズが試作した電気自動車

KRP

「テクノロジー&ビジネスプランコンテスト2012」 最優秀賞を受賞

「人」と「人」が交わるフリーマガジン
KRPPRESS 1 2013
vol.128
JANUARY



KRP

特集1

日本のテクノロジーが世界の新しいビジネスを創る! テクノロジー&ビジネスプランコンテスト 2012

日時: 2012年12月7日(金) 13:00~17:30 (展示・交流会18:00~19:30)
場所: KRP1号館4階サイエンスホール

科学技術を活用した新たなベンチャービジネスの
創出と育成を目指すコンテストの第2回。
ファイナリスト15人が熱のこもった発表を行い
最終審査によって各受賞者が決定しました。

主催: 京都リサーチパーク(株)、(財)SARR
共済: (公財)京都産業21、(財)京都高度技術研究所
協力: NPO法人グローバルアントレプレナークラブ、share KARASUMA、京都大学
後援: 近畿経済産業局、京都府、京都市、京都府工業振興所、中小企業 近畿、
日本貿易振興機構(ジェトロ)大阪本部、公益財団法人 大学コンソーシアム京都、
(社)日本ベンチャーキャピタル協会、(財)ベンチャーエンタープライズセンター、
NPO法人日本MITエンタープライズフォーラム、認定NPO法人地域産業おこし会、
京都銀行、京都信用金庫、日刊工業新聞社、京都新聞社、京都新聞 COM

最優秀賞

京都産EVスポーツカーを世界へ発信 グリーンロードモータース株式会社 小間 裕康氏

【小間裕康氏プロフィール】
グリーンロードモータース株式会社代表取締役、京都大学発の電気自動車の開発・販売プロジェクトを企画として、2010年ピュアスポーツEV「トミーカイラZZ」の開発販売を行う同社を設立。現在、半合ベンチャー企業育成工場にR&D拠点を構えている。



(写真右) グリーンロードモータース(株) 小間 裕康氏

■受賞者のコメント

京都が生んだスポーツカーブランド「トミーカイラ」を継承し、京都のものづくり企業と共同開発することによって、このEV(電気自動車)を量産モデルに仕上げた。このプラットフォームを他社に提供して、だれでも車や自動車会社をつくらることができるという新しい製造業の形も提案していく。受賞できるとは思わなかった。驚いている。評価されたビジネスモデルをしっかり構築して、期待に答えたい。

■審査のポイント

「トミーカイラ」という車をベースに京都産の新しいスポーツカーをつくる、というプランはすごくワクワクするものですが、評価されたのはプラットフォームを提供する車体ビジネスでした。個人がメーカーになれる多品種少量生産が注目を浴びている今、車台とボディを分けて製造できるなど、他社でもスポーツカーをつくりやすいモデルになっているところに実現可能性があり、偏重を制して受賞となりました。

(財)SARR 代表取締役 梶田 一哉氏

日本経済新聞

先輩の肖像 10年後の君たちへ

グリーンロードモーターズ 小間 裕康さん(35)



京都で電気自動車(EV)を開発するベンチャー「グリーンロードモーターズ」(京都市)社長の小間裕康(こま ひろゆき)さんは、かつて販売中止に追い込まれたスポーツカーをEVとして復活させるプロジェクトに取り組み、京都大学大学院在学中にEVの魅力を引き込まれ、同社を設立した。一心からわくわくするクルマを造る。2013年春の発売に向け、最後の仕上げを急いでいる。

京都府宇治市の旧日産車体跡地に整備された起業支援施設の一室。完成まで最終段階を迎えた車用し、重さは軽自動車並みに軽量化した。欧州の高級スポーツカーと同程度の加速が得られるという。バッテリーやモーターなど心臓部はもちろん、内外装も足回りまで部品はすべて外部の企業から調達。車体の組み立ては京都府舞鶴市の企業に委託する。EVの設計開発のほかは、部品メーカーなど協力先を探すのが小間さんの仕事だ。

EVとの出会いは09年。人材派遣会社を経営する傍ら、知識を体系的に学びたいと京大に入学。当時、京大などが確学官連環で開発に取り組んでいたEVプロジェクトの存在を授業で知った。一学年で、技術者の募集もなかったが、映画企業の募集やプロモーションにかかわるようになった。

先駆けであるベンチャー・モーターズの本社を訪ねた時だ。スポーツタイプのEVに試乗すると、シートに背中を押しつけられるような強烈な加速感。「EVならスポーツカーの魅力を最大限に引き出せる」と実感した。しかも少量販売で利益をとれるを独自開発した京都の会社、ト

ミテ工場の人材がいた。何が足りない、ベンチャーでもチャンスがある」と考えた。帰国すると事業化を決定。10年4月に会社を立ちあげた。開発のための技術者を募集すると、伝説の同産スポーツカーといわれる「トミカイクラウド」を独自開発した京都の会社、ト

を頼もうと企業を訪問しても、一巡るなら100万円以上は必要。コストが合わないなどと、首を横に振るばかり。粘り強く訪問を続け、収益見直しを話してきます。と協力してくれる企業を探して、元二一会長の出井伸之氏個人や電子部品メーカーのニチコン、二葉UDJキャピタルなどから出資してもらったことにも成功した。

甲面価格は800万円前後を想定。現在はデザインの見直しを進めている。周囲から実現は無理だと言われる。とよけいに燃える。壁を乗り越えることの意味がある。と話を強める。世界的なベンチャーを生み出した京都が、次世代スポーツカーの夢を追い続ける。

最近見た映画で気に入っているのは、ロボット同士の格闘技を描いた「リアル・ステイル」。くす鉄道場場に掲げられていた夫公のロボットと、天才プログラマーが設計した敵のロボットがボクシングで対決する内容です。エリートに挑戦している主人公の姿にベンチャー経営者の自身を重ねてしまいます。

インドア派で、一番の趣味は自宅での映画鑑賞です。ワインを片手に3歳の息子とテイズニー映画などを見るのは平福のひとときです。映画を見ていても登場人物が乗るクルマは何かと目で追ってしまいます。仕事のヒントになりそうなお話は何でもすぐにメモをさるうちに、そばにメモレットを置いていきます。

息子とくつろぎ 自宅映画鑑賞

大阪経済部 白川雅也

名スポーツカー、電気自動車で復活へ 次世代の加速感 求めて

ある日のスケジュール

- 6:50 起床 兵庫県内の自宅から電車で約1時間半
- 7:30 通勤
- 9:00 出社
- 10:00 打ち合わせ 取引先など毎日2~5社を回る
- 昼食 取引先とランチミーティング 仕事以外の話題で盛り上がる
- 16:00 電話会議
- 17:00 資料作成 社内の技術者と相談しながら仕様書を作成
- 22:00 退社
- 23:30 帰宅 夕食と晩酌
- 1:00 就寝

充電タイム

電気自動車ならスポーツカーの魅力も大限に引き出せる。と志すスポーツタイプの電気自動車開発に乗り出した(京都府宇治市)

息子とくつろぎ 自宅映画鑑賞

インドア派で、一番の趣味は自宅での映画鑑賞です。ワインを片手に3歳の息子とテイズニー映画などを見るのは平福のひとときです。映画を見ていても登場人物が乗るクルマは何かと目で追ってしまいます。仕事のヒントになりそうなお話は何でもすぐにメモをさるうちに、そばにメモレットを置いていきます。

電気自動車ならスポーツカーの魅力も大限に引き出せる。と志すスポーツタイプの電気自動車開発に乗り出した(京都府宇治市)

大阪経済部 白川雅也



2013年10の予言
Our 10 Predictions for 2013
人物、ファッション、ビジネス、政治、デジタル・ガジェット、
車、オナタ、アイドル、セックスまで、
2013年の日本と世界のトレンドを大予測!

GQ JAPAN 2013年2月号 特集記事「2013年10の予言」

CAR

2013年のホットスト・カーは?



開発用のZZのペア・シャシーに惚かける小間康裕さん。京大大学院で経営管理を学び、電機メーカーに大手家電量販店向けの営業部隊をパッケージで提供するベンチャーを起業。年商20億円規模に成長させた。GLMの起業は2010年、13年春に社長となるZZは車と安全の両面から、トヨタのライバルとなる。デザインを一新する。小間さんの背後にあるのがフロント・カウルのウレタン製の型だ。GQ読者のためのサービス・カット。



EV化されたZZのプロトタイプ。開発には元トヨタのエンジニアも関わっている。

Details
【知る】



The New Switch to Electric
和製テスラ、京都で誕生す!

2013年春、京大ベンチャーのなかからテスラもかきやの電気スポーツカーが生産開始となる。生産台数は初年度100台、価格は800万円前後。35歳の青年社長、小間康裕さんに直撃取材した。

文：今尾康樹(GQ) 写真：山下亮一(人物) / グリーンロードモーターズ

小間康裕さん率いるグリーンロードモーターズ(GLM)が、トミーカイラZZのEV(電気自動車)化に成功。国内の認証を取得したのは2012年10月のことだ。あわせて京都の舞鶴で2013年春から量産すると発表。秋にはデリバリーを開始する。初年度の生産台数は100台。翌4年には200台、15年にはサイド・スクリーンと幌を備えたカブリオレ・モデルを追加し、400台販売するという。

EVの可能性を信じて2年前にGLMを、京大ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー内に起業した小間さんは、技術者を募集するなかで、トミーカイラZZ

の存在を知る。トミーカイラZZとは、京都のトミタ製工場が1990年代後半に設計・販売した、公道を走れるレーシング・カーと表現すべきハードコア・スポーツカーで、当時、同様の成り立ちを持つロードスター・エアーセを上回る動力性能を誇った。

アメリカのEVベンチャー、テスラのスポーツカーが、ロードスターをベースにしていることは知られている。そのロードスターに勝るとも劣らぬスポーツカーが日本、それも京都にあったのだ! さらにモーターの日本電産や、コンデンサのニチコン、それに電子部品のオムロンなど、京都に本拠地を置くメーカーの協力を得て、京都発の電気スポーツカーが生み出そうとしているのである。

トミーカイラZZ II

トミーカイラがZZ IIで開発していたZZ IIのEV化も発表されている。3Dプリンターの技術が進歩。オートクチュールのお好きなボディを数万円プラスで1台から製作できるようになる。と小間さんはいう。



日本のスーパーカー、日産GT-Rのプロジェクト責任者が語る2013年クルマ界の予測

エコと走りの楽しさのドッキングが始まる!

日本のクルマ界のカリスマ・エンジニア、水野和敏さんは2013年をどう見ているのか? 大予言を聞いてみた。

写真：望月浩徳



水野和敏

GT-Rプロジェクト責任者GT-Rは「生きる力」を生み出すアートであると定義。日本の文化で日本のブランドをつくることを目指す。「おもてなし」と「たくみ」がキーワード。

「劇的に変わるのは、エコロジーと走りのドッキングがスタートする。それが2013年からだと思う。いま、エコロジーはエコロジー、走りは走りやインディペンデントだけど、特殊技術だったエコロジーが当たり前技術になってエコロジー+走りという世界が新しく展開する。両方の楽しみがあるんだ。その答は、そのうち出てくると思うけど」

そう水野さんは2013年を予測する。つまり、GT-Rにもエコ・モデルが出る。「それはわからないよ。ただ、10年先

まで見越して、(GT-Rの独立型トランスアクスル4WD&プレミアム・ミッドシップ・パッケージ)なんでもできるよに設計してある。エンジンとミッションが分離されて、しかもフィクシング・チューブでつないでいないから、どんなミッション、CVTを持ってこようが、エンジンをディーゼルにしても、干渉していないから、編集・設計変更しやすい」

GT-RのSUVもできる? 「なんでもできる。日産自動車のなかでどうするかという問題だけ。どんな車型

にするのにも、なんの苦労もいらない」マゼラーティやランボルギーニ、ベントレー等々、スーパーカー・ブランドがSUVに進出しようとしています。

「それはアメリカというマーケットが存在するから。スポーツカー、SUV、セダンでは三種の神器だよ。アメリカのお金持ち。GT-Rのチールランプを持っているSUVを出したら、絶対GT-Rと同じか、それ以上売れるという方程式がある。どうして自動車メーカーはこんな単純なことに気づかないんだ?」

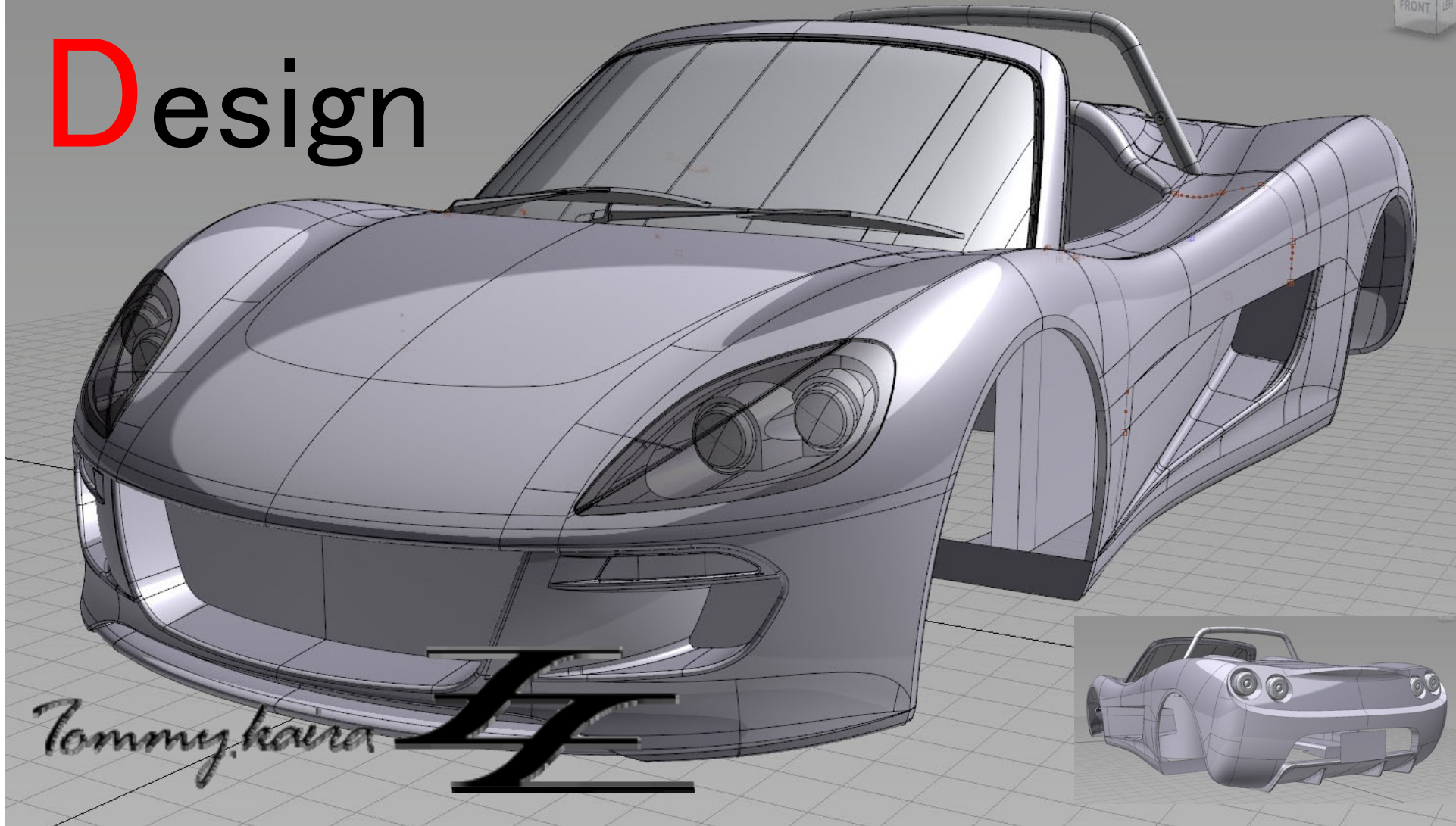


ニルブルクリンク北コースのタイムを非公認ながら7分18秒6に短縮。0-100km/h加速2.7秒という速さを実現した。最高出力550ps。最大トルク84.5kgmというエンジンのスペックに変更はない。数字に表れない感動こそ、GT-Rの魂。発売から5年を経て、13年モデルを「第3世代」と水野さんは呼ぶ。速いだけでなく、徹底的に磨きで磨らなかなフォーリングをドライバーに伝えてくれる。内装では、オプションで設定された「ファッション・ブルー・インテリア」(写真左)が魅力的だ。一人の職人が手組みするエンジンには担当者のネーム・プレートが貼られる(写真右)。米国の12万ドルの高級車は「地味地味で肌ごころに売れている」という。

すべてが新しいトミーカイラ

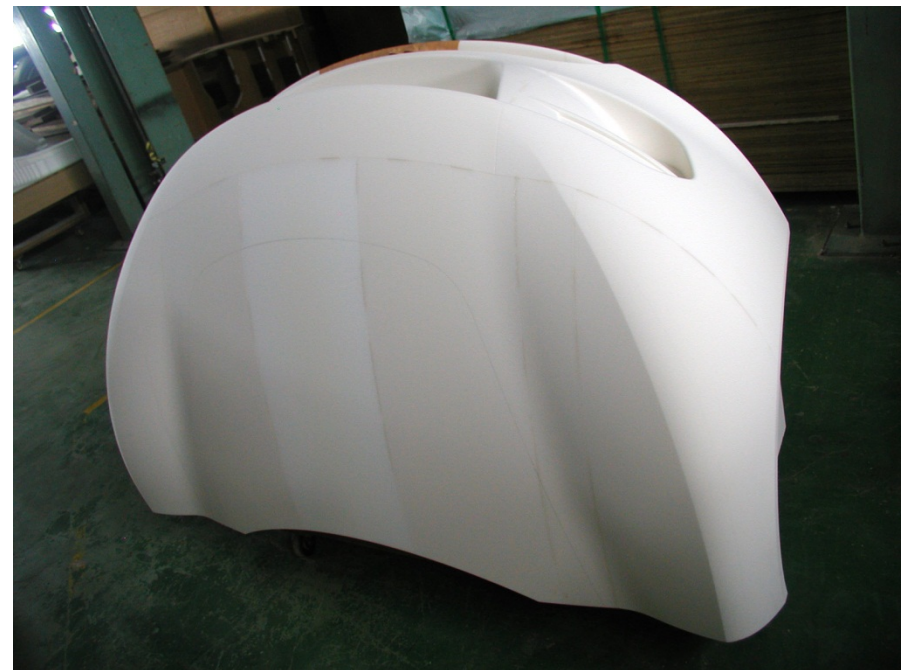
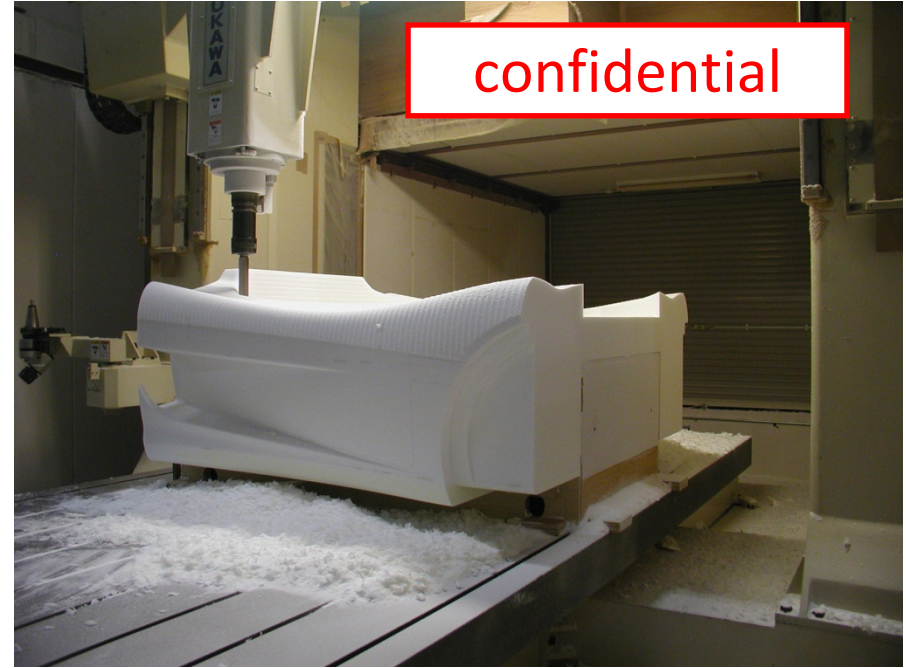
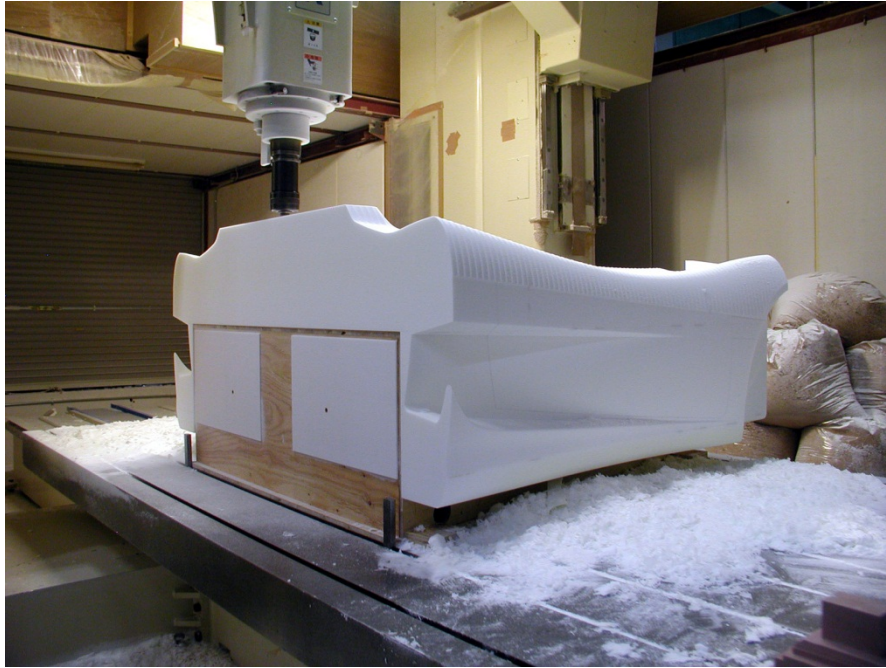


D Design



CAD Design
confidential

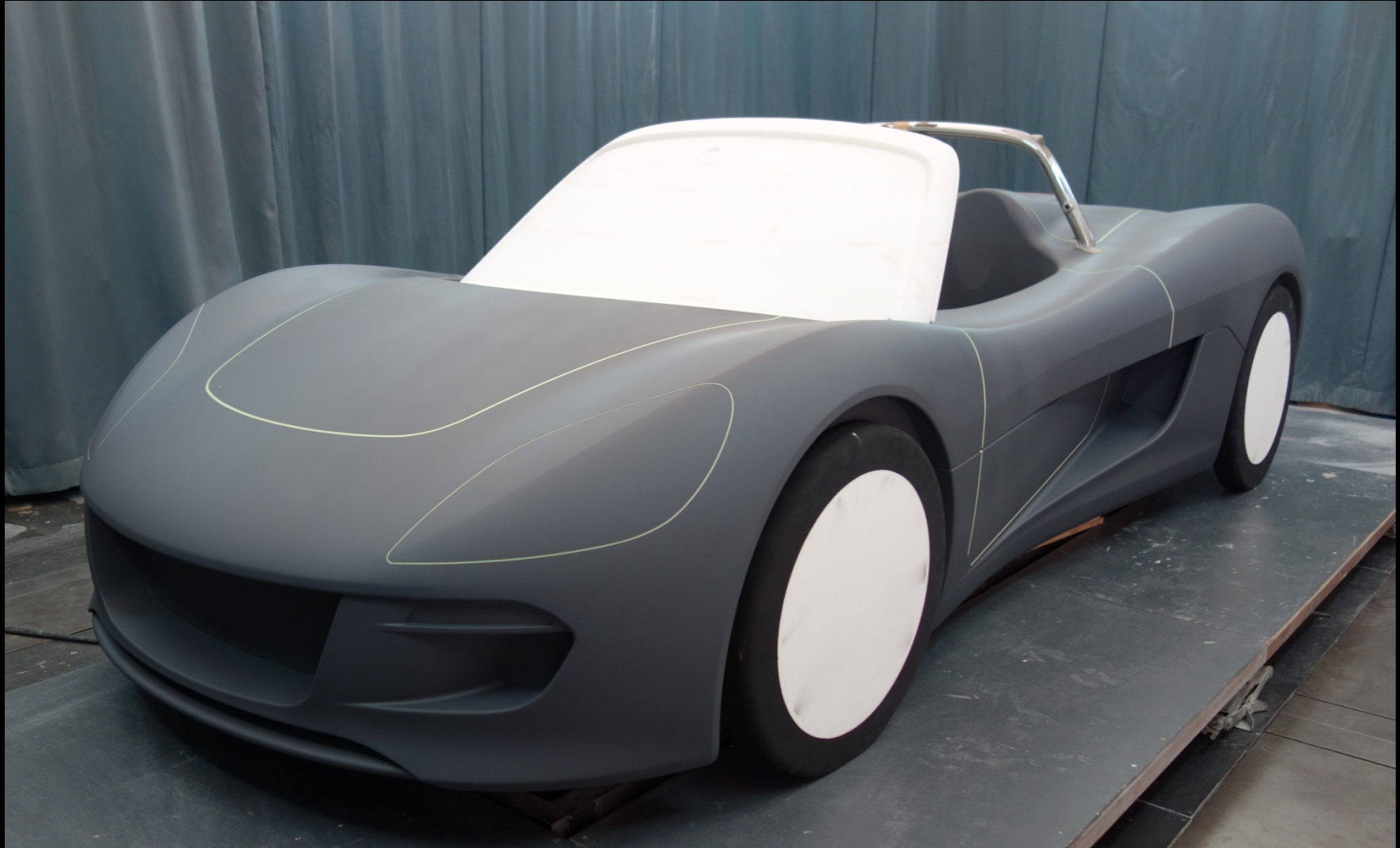
APPENDIX



APPENDIX



APPENDIX



confidential



マスターモデル

confidential



confidential

GLM

Astounding pleasure for all



Tommy Kaira

Green Lord Motors Two Business Models



日本・アジア唯一のピュア・スポーツカー・メーカー

We'll be a Pure emotional car Company in Japan. CEO H.Koma



Astounding pleasure for all



はじまります
世界をわくわくさせる出来事。